

なな山だより

なな山緑地の会会報 第9号 2007・10

来月から活動場所が広がる！



以前より、計画があった隣接地(約0.7ha)の取得のための予算が9月の多摩市議会を通過しました。現在の予定では、10月に契約が完了するとしています。

この山となな山と併せて多摩市が都市計画特別保全地区に指定する計画もあり、11月からは、当会メンバーにより、保全活動ができるものと思われます。また、西側の斜面(写真右)についてもUR都市機構から多摩市に譲渡されるということなので私たちの管理・保全地域は今までより、格段に広がることになるようです。



隣接の森(写真左)は、なな山緑地と異なり、ほとんど手入れをされずに何年も放置されていたので、倒木も多く、木が生い茂って、下草は何も生えていない状態で作業は大変ですが、手入れされたなな山と比較する楽しみもあるようです。

隣接住宅の自治会がなな山を見学



9月16日(日)高木会長はじめ多くの会員が住んでいるなな山の隣の和田百草園住宅の自治会で防災訓練が行われました。消防車も来て、家具の転倒防止、消火器、AEDなどの訓練が実施されました。訓練終了後、大規模災害発生時の避難場所としてなな山緑地を検討したいという趣旨で、自治会メンバー28人がなな山を見学に訪れました(写真左)。

従来は住宅地内にあるななやま児童公園が考えられていましたが、狭いので、なな山緑地が候補となりました。テントを張る十分な広さがあり、トイレ、水、電気が使えることから、避難場

所として適しているという結論になりました。和田百草園住宅だけでなく、近所の住民にも役立つはずとして、将来的には、行政と話し合っていくことになりました。

なな山の畑が充実してきました

なな山の畑がかなり充実してきました。昨年まではサツマイモ、サトイモ程度でしたが、今年は既に、ジャガイモ(キタアカリ、メイクイン)約200個とカボチャ数個の収穫がありました。

現在、畑にはサツマイモ、サトイモ、ブロッコリー、ネギ、ソバが育っています。9月23日には、カボチャの収穫のあとを整理、耕耘機で耕し、石灰、肥料をいれ、マルチチングをしてダイコンの種をまきました(写真右)。収穫が楽しみです。

来年はスイカなども植えてみよう、いろいろ計画しています。



雑木林は何時の頃からか、里山(山里を逆さにしたもの)と呼ばれるようになりました。

今日、自然環境を守る事が必要だと誰もが訴える時代となり、益々「なな山緑地の会」の活動の役割が大きくなってきていると感じます。また「市民と自治体」が協力し合う、協働の時代です。

雑木林とは、先人たち(農家)が築き上げた「自然との共生」の場所であり、自然界と人間社会の「もちつ、もたれつ」の関係が築かれ、またそれが長い間持続し、今日に至っています。

放置された雑木林は400年くらいで原始の姿に戻ります。しかし手入れをするとコナラ・クヌギ等の広葉樹やエビネ・キンラン・シュンランなどの植物が、毎年春になると木々は芽を出し草花は開花し、初夏には子供たちが遊ぶカブトムシが堆肥の中から巣立っていきます。一年を通し雑木林には季節ごとの顔があるのです。

来月からは東側に隣接する雑木林も我々の活動範囲になるようです。先人たちが手を入れてきた雑木林の植生と、今まで放置してきた雑木林の植生を対比させ、大きな違いが発見できることと思います。

食について安心安全などの言葉をよく耳にしますが、何をもって安心安全なのかを、一人一人が自問自答することが必要です。旬の野菜を食する事が我々の身体には一番良いことは、誰もが理解できているのでしょうが、スーパーでは春の野菜から始まり夏・秋・冬野菜が全てショーケースに並べられ、食べたい時に何でも手に入りますが、地球温暖化の視点から見ると、ビニールハウスで作る冬のキュウリがどれだけの温室効果ガスを発生させているかを考えるべきでしょう。また化学肥料の使用が大半を占めている野菜作りは、雑木林の堆肥や、有機肥料を使った野菜作りに変えていくことが必要不可欠です。

なな山緑地では、雑木林の環境保護活動の他、畑を耕作し野菜を育て収穫祭を行い、参加している誰もが里山の恵みを肌で感じて、五感を通して里山の恵みを得られることを大切にしています。特に子供たちには雑木林の中で虫取り等の遊びを体験することで、自然環境の心を学ぶことが出来ます。

会の発足以来、企業からの助成金を何度か受けられたことで、活動に必要な道具(チェンソー等)を使い作業が容易に進んできましたが、今後は助成金を受けられる保証は何もないので、雑木林からの産物で対価を得られるよう、当会が自立できる仕組み作りが急務だと考えます。

広げよう会員の和

リレー随筆(9)

森への賛歌

青木弘年

人生の最終楽章に入った私に、フランスの田舎にあるロマネスク寺院を、バイクで回りたいという夢がある。というより、ずっと以前からのプランであって、その大事なところを楽しみに残してきたという方が正しい。しかし、これにいろいろな壁が立ちただけ、年々、実現の確立が下がっている。

そこで、私の森とのつき合いが始まるのである。ロマネスクと森がどこでつながっているかの説明は今回、省くことにするが、とにかく、私は森の空気が好きだ。その中にいると、雑音波の多い普段の生活を忘れ、いつのまにか自然と会話する本来の自分がある。今、私は三つの森を行き来して、それぞれの良さを味わっている。一つはもちろんこの「なな山」である。森を管理する1年のリズム、そして樹木や野の花を愛する仲間がいる。二つめは長池にある「里山クラブ」。ここでは森の他に炭焼き・水田・畑など、かつての里山に近いスタイルがあり、週1~2回の自主活動を楽しんでいる。ゆったり流れる時間や風が心をなごませてくれる。

あとの一つは、私が仕事場にしている信州のアトリエにカラマツをメインとするちょっとした森がある。窓から見える浅間連山が、季節と共に、時間と共に変化していく風景に飽きることがない。初めてその森に入ったとき、キジが私をめずらしいものでも見るようにテリトリーを誇示する姿が見られ、くるみを食べに来るリスもいた。私は説明書を読みながらチェンソーを使いはじめ、混みすぎた樹木や枯木を切り、森の中を動きやすくするための小路を作っていた。それから13年、最近では野の花を観察する余裕もできた。ヒトリシズカ、マムシソウ、イカリソウ、キッコウハグマなども親しくなっていた。

制作するために出かけて行ったのに森の中で過ごす時間の方が多いいこともある。まあそれもいいだろう。森に私を虜にする何かが潜んでいるようだ。

次回は、最近なな山で良くお仕事されている隅田さん書いていただきたいと思います。どうぞよろしく。



ヒルガオ ヒルガオ科

Calystegia japonica Choisy

7～8月にかけてよく見かけるヒルガオ。なな山にも咲いていたが、先日刈られてしまい、この写真(右)は道端に咲いていたもの。アサガオに対し、昼まで咲いているのでヒルガオ。



つる性の多年草で、大きな2枚の苞が萼を覆う。結実することはまれで、地下茎で増えるため駆除が難しく、畑のやっかいものとされている。観賞用に栽培されることはほとんどないが、それに対し日本でのアサガオ栽培は世界的にも有名。

アサガオ(ヒルガオ科)は栽培が簡単なため、夏になると家の庭先に植えられたり、行灯作りに鉢植えされたり、日本の夏の風物詩となっている。そのアサガオの変種作りが、現在ごく一部の施設やマニアの間で行われている。この発端は江戸時代に遡る。

アサガオは奈良時代に薬用として中国からもたらされたと推測されている。原種は薄青色だが、園芸品種としてのスタートは、江戸時代に白花が出現したことによる。当時、人々は珍奇な朝顔づくりに打ち興じ、各地で「花合わせ」(品評会)が盛んに開催されたのだった。それらは変化朝顔と称した。

江戸末期になると栽培は過熱し、何百鉢もの中から突然変異を見つけ出す方法で作出された。大輪アサガオはいうまでもなく、珍奇であればあるほど希少価値が高く、雄しべと雌しべが花弁状に変わる牡丹咲きなどの複雑な形のものまで現れたのだった。

『朝顔三十六花撰』を見ると美しさを追求するというよりは、奇形の作出を目的とする不気味なものまで見られる。フェチのなせる技か。彼らはメンデル以前に遺伝の法則を熟知していたらしいと指摘する人もいる。

(図左から)1.『朝顔叢』1817年、四時庵形影著。花と葉の両方に変化が起こっている。変化朝顔作出初期のもの。2.以下『朝顔三十六花撰』1854年、服部雪斎画。風鈴に似た花弁6枚が飛び出し、葉は手をすぼめた形。3.細く切れた花弁が八重になっている。葉はまるまり先が爪のように伸びている。4.花色は小豆色、藍、薄青と3色からなる。葉は周辺が縮れている様子。



1



2



3



4

[4ページからの続きです]

2007・9・23(日)曇りのち雨気温 24



ダイコンの種まき。ブロッコリー、虫に喰われ、急いでカバーする。参加者9人。
[作業]畑=残りのカボチャ収穫その後に石灰・肥料を入れてダイコンの種まき、ブロッコリーに不織布で蝶避けの覆い(写真左)、草刈り(道路沿い・広場)。
「観察」見つけた植物=ヤマホトトギス、マコモ、ミズヒキ、キバナアキギリ、クヌギのドングリが沢山。

差し入れ=ゼリー(長尾さん)。 午後は雨が降ってきて中止になる。

なな山日記(活動・観察記録)

とたに えま

2007・7・8(日)晴れ気温25

ジャガイモ収穫。お昼は皆でバーベキュー。植物沢山開花。参加者14人。
「作業」畑=草取り、カボチャの下にカヤ敷き込み、ジャガイモの収穫と後地の耕し。草刈(斜面・歩道沿い)、側溝掃除。植物養生。
「観察」咲いていた花=ヒメヒオウギズイセン、ヒメドコロ、アキノタムラソウ、オカトラノオ、コカメヅル、オオバジャノヒゲ、アキノキリンソウ、オオバギボウシ。昼の休みに電気プレートでバーベキュー。取れたてのジャガイモも焼きました。住崎さんから、キュウリ、インゲン差し入れ、美味しかった！(写真右)。



2007・7・22(日)雨のち晴れ気温26



朝は雨でも活動決行！結構な作業ができました(^_^)v。参加者9人。
「作業」畑=ネギの苗植付け、サツマイモツル返し、雑草取り。草刈り。側溝掃除。植物観察・養生。
「観察」見つけた植物=ウワミズザクラの実(写真左)、ヒヨドリバナ、ヤマユリ、ヤブミョウガ、オオバギボウシの花芽、ヒヨドリジョウゴの実、シロヤマギク。朝、一部の人に中止の連絡あるも、届かなかった人が集まった。来た人でやることを実施した。皆のやる気と情熱を感じました(^.^)。

2007・8・12(日)晴れ気温32

暑さ厳しいが日陰は快適。差し入れ沢山。山より団子(*^_^*)。参加者14人。
「作業」畑=草取り、サツマイモのツル返し(写真右)、サトイモ水やり。草刈り(広場・林内)、植物観察。
「観察」見つけた植物=ガンクビソウ、ヒヨドリバナ、台湾ンホトトギス、ヤマホトトギス、トキリマメ、コナラの実、クズ。差し入れ=紫蘇ドリンク(立見さん)、沖縄のパイナップル(鎌田さん)、チーズケーキ(戸谷)。



2007・8・26(日)晴れ気温32



暑くてもたくさんの参加者。畑がだんだん充実してきた。参加者11人。
「作業」畑=サトイモ水やり、ブロッコリー苗植え、ソバの種まき。草刈り(広場・梅林・東道路)、側溝整備、植物養生、間伐するべき木に目印をつける(約20本)、チップソーの交換など刈払機整備(写真左)。斜面の草刈りは須田さんが平日に実施した。
「観察」見つけた植物=ヌスビトハギ、ベニバナポロギク、ミヤマナルコユリの実、ヨウシュヤマゴボウ、ヤマウド、エゴノキ。差し入れ=紫蘇ドリンク(立見さん)暑い日には本当に美味しい(o)。

2007・9・9(日)晴れ気温29

カボチャを収穫。ドングリが豊作。そばの芽の塩もみを試食。参加者13人。
「作業」畑=ネギ土寄せ、カボチャ収穫(写真右)、草刈り(梅林・広場)、落枝拾い。台風で壊れた山道の修理、植物観察・養生。ソバの芽は爽やかな味でした。「観察」見つけた植物=ウマノミツバの実、サンキライの実、オニドコロの実、キツネノマゴ。差し入れ=スイスのチョコ(相田さん)、ショウガと味噌(住崎さん)
[紙面の都合で3ページに続きます]



なな山だより	第9号	平成19年10月14日発行
発行		なな山緑地の会
発行責任者		高木直樹
住所		多摩市和田1394 13
ホームページ	http://www.geocities.jp/nanayamaryokuchi/	
編集委員	鎌田文雄・中原君代・戸谷恵麻	

編集後記

暑かった今年の夏もようやく終わり、活動に最適なシーズンになりました。
畑には作物が実り、活動場所も拡大します。雑木林を渡る爽やかな風に吹かれながら、みんなで楽しく活動しましょう。なな山でお待ちしています。 K